

樹医からのアドバイス (Vol.23)

～除草剤で木が枯れることがあります～

出雲市樹医センター

樹医 榎野 浩二郎

葉が異常に変色して枯れそうな木があるので診てほしいとの相談を受けることがあります。原因は粒状の除草剤によるものでした。

【除草剤の種類】

除草剤は生えている雑草を枯らす「茎葉（ケイヨウ）処理剤」と、これから生えてくる雑草を抑える「土壌処理剤」の二つのタイプに分けられます。一般には茎葉処理剤が最も多く使われています。

【茎葉処理剤】

最近では根まで枯らすグリホサート塩を主成分とした除草剤がよく使われています。効果は1～2か月で、通常の100倍に希釈した液剤は、葉から吸収され土壌に入ると分解されるので、樹木の周囲に散布しても影響は少ないです。苔の中の雑草にはパラコート系の地上部だけ枯らすタイプが良く、苔は枯れずに雑草だけ枯らします。

【土壌処理剤】

薬剤が土の表面に残留して雑草を抑えます。水田やゴルフ場の芝にはこのタイプが多く使われています。一般には粒状タイプのものが多く市販されていますが、土壌に長く残留しますので、木の周辺に散布すると葉の色が抜け、枯れることが少なくありません。庭に散布する場合は樹冠（枝張り）から1～2m離して散布すると良いでしょう。

【農薬登録】

農薬として登録された除草剤は「農耕地用」として販売されています。畑はもちろんですが、庭にも登録された除草剤を使用することをお勧めします。



土壌処理剤で影響が出たウバメガシ